

1 事業概要	
事業名	主要地方道 <small>はぎしのぶ</small> 萩篠生線 道路改築事業
事業場所	<small>やまぐちし</small> 山口市 <small>あとうちょう</small> 阿東町 <small>あかがね</small> 銅
事業主体	山口県
事業期間	平成 15 年度 ~ 平成 30 年度 (西暦 2003 年度 ~ 西暦 2018 年度)
総事業費	1,452 百万円
事業目的	主要地方道萩篠生線は、萩市を起点とし、山口市阿東町三谷へ至る幹線道路である。当路線は、日本海側の中心都市である萩市の市街地と同一の阿武川水系で萩市と密接な関係にある阿東町を結び、第2次緊急輸送道路に指定されていることやバス路線であること等、両地域の地域間交通を担っている重要な路線である。また、城下町萩と長門峡県立自然公園を経て津和野へ至る観光周遊ルートとして観光振興に欠かせない路線でもある。このため、当該区間をバイパス整備することにより、安全で円滑な交通の確保することで地域住民の安全性や利便性の向上、地域観光産業の活性化に寄与することを目的としたものである。
事業内容	○延長 L=1.38 km ○幅員 全幅8.0 m (車道3.0×2=6.0m) ○道路区分 第3種第3級

2 事後評価の視点	
(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	
【費用対効果分析】	
区 分	事業採択時・計画変更時・ 再評価時
評価基準年	平成24年度
事業費	1,400 百万円
工期	H15年度 ~ H30年度
費用対便益比	B/C=1.3
【要因変化の分析】	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業費は、約0.5億円の増額となった。 ・工期は、約4年の延伸となった。 ・費用便益比は、再評価時と比較し同程度である。 	
(2) 事業の効果の発現状況	
【事業の効果の発現状況】	
<ul style="list-style-type: none"> ・線形不良・急勾配箇所解消 ・防災点検要対策箇所6箇所が解消 ・松陰神社～長門峡駅（山口）の移動時間の短縮（約33分→約32分 ※約1分の短縮） ・安心で快適な「萩～津和野」を周遊する観光ルートの形成 	
【事業の効果の発現状況に対する評価】	
<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所が解消されたことにより、信頼性の高い輸送ルートの確保 ・観光ルートが形成されたことで、広域的な交流による観光産業の活性化に寄与 ・各道の駅や観光農園等へのアクセス性が向上したことで、地元産業の活性化にも寄与 	

(3) 事業実施による環境の変化

【変化の状況】

- ① 自然環境への影響
 - ・土地の改変を最小限にとどめ、自然環境への影響の軽減に努めた。

- ② 生活・住環境等への影響
 - ・バイパス整備により旧道の通過交通が転換し、旧道沿いの生活環境の改善が図られた。

- ③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）
 - ・工事に伴う濁水対策として、沈砂池を設置するなどし、河川への影響を軽減した。

(4) 社会経済情勢の変化

【変化の状況】

- ① 社会経済状況及び事業環境等の変化
 - ・平成22年1月に阿東町と山口市が合併し、旧阿東町と各地域間の連携が強化にされた。
 - ・周辺拠点の観光需要は増加しており、新型コロナウイルス感染症の収束後はさらなる増加が見込まれることから、当該道路の観光周遊ルートとしての重要性も高まった。

- ② 関連計画・関連事業の状況の変化
なし

(5) 今後の事後評価の必要性

なし

(6) 改善措置の必要性

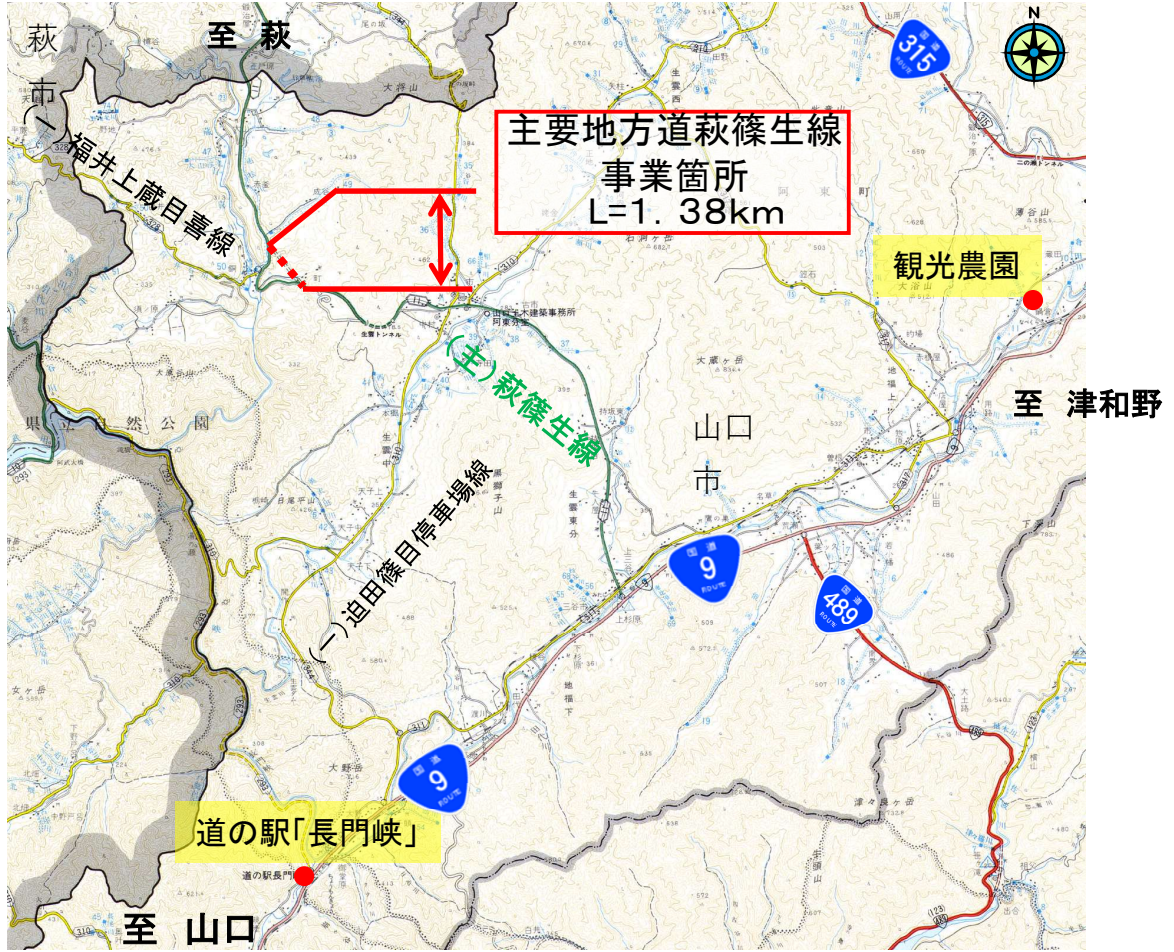
なし

(7) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

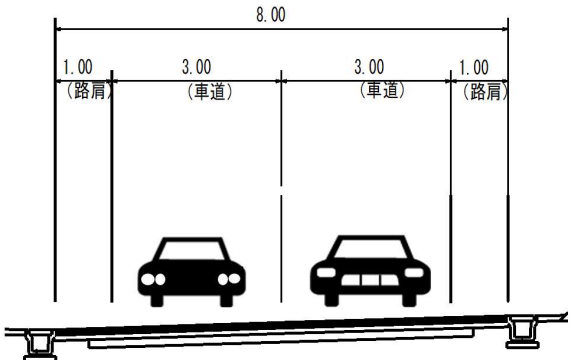
なし

しゅようちほうどう はぎしのぶせん あかがね
 主要地方道 萩篠生線 銅 工区

平面図



標準断面図



写真

